

【添付資料】 出演者・ゲストプロフィール

山崎育三郎



2007年にミュージカル『レ・ミゼラブル』のマリウス役に抜擢され、甘く気品のある歌声と抜群の演技力で数々のミュージカル作品に出演。2015年ドラマ『下町ロケット』（TBS系）真野賢作役で、一躍注目を浴び、2018年10月期ドラマ10『昭和元禄落語心中』（NHK総合）では、天才落語家助六役を演じ、『第14回コンフィデンスアワード・ドラマ賞』助演男優賞を受賞。ドラマや映画での演技以外に実写映画『美女と野獣』野獣役や劇場版『名探偵コナン 紺青の拳（フィスト）』レオン・ロー役で吹替えを担当。アーティストとしては、2016年カバーアルバム『1936 ～your songs～』が第58回日本レコード大賞企画賞を受賞。近年は連続テレビ小説『エール』（NHK総合）や大河ドラマ『青天を衝け』、映画『イチケイのクラス』、金曜ナイトドラマ『リエゾンーこどものこころ診療所ー』（テレビ朝日系）などに出演。5月からはミュージカル『ファインディング・ネバーランド』に主演ジェームズ・バリ役で出演予定。

明日海里お



静岡県出身。2003年、宝塚歌劇団に89期生として入団。華やかな舞台姿と、演技力を筆頭とする確かな実力で早くから注目を集め、2014年に花組トップスターに就任。5年半に及ぶトップ時代には、大ヒット作『エリザベートー愛と死の輪舞（ロンド）ー』、名作漫画初の舞台化となった『ポーの一族』などの話題作に主演し、宝塚歌劇を代表する一人として、その人気を牽引した。2019年の退団後は『マドモアゼル モーツァルト』『ガイズ&ドールズ』などの舞台のみならず、連続テレビ小説「おちょやん」ドラマ「コントが始まる」「DCU～手錠を持ったダイバー～」など映像作品でも活躍。今年1月期には話題を呼んだドラマ「大病院占拠」に出演、5月には日本初演のミュージカル『エリザベス・アーデン vs.ヘレナ・ルビンスタイン -WAR PAINT-』、7月には音楽劇『精霊の守り人』と2作連続で日生劇場での主演作が控えている。9月には20周年記念となるコンサートを東京・大阪にて開催予定。第41回『松尾芸能賞』優秀賞受賞。

木下晴香



1999年2月5日生まれ。佐賀県出身。2017年にミュージカル『ロミオ&ジュリエット』のジュリエット役でデビュー。以降、ミュージカルを中心に活躍する中、2019年にはディズニー実写版映画『アラジン』のジャスミン役の吹き替えを担当し注目を浴びる。2021年には舞台『彼女を笑う人がいても』にて初のストレートプレイに出演。2021年第11回岩谷時子賞・奨励賞、2022年第47回菊田一夫演劇賞・演劇賞を受賞。主な出演作品に、ミュージカル『モーツァルト！』『銀河鉄道999 さよならメーテル～僕の永遠』『ファントム』『アナスタシア』『王家の紋章』『プロデューサーズ』『ザ・ビューティフル・ゲーム』、音楽劇『夜来香ラプソディ』がある。2023年8月より放送予定のNHK BS時代劇「雲霧仁左衛門6」、9～10月ミュージカル『アナスタシア』の再演(主演)が控える。

濱田めぐみ



福岡県出身。1995年劇団四季に入団、『美女と野獣』のヒロイン・ベル役に大抜擢される。『ライオンキング』『アイーダ』『ウィキッド』と初演三作品でヒロインを演じるなど、看板女優として活躍。2010年に退団。以後ミュージカルを中心に活躍を続ける。近年の出演作に、舞台『レ・ミゼラブル』（ローレンス・コナー、ジェームズ・パウエル演出）、『シャボン玉とんだ宇宙（ソラ）までとんだ』（小林香演出）、『サンセット大通り』（鈴木裕美演出）、『イリュージョニスト』（トム・サザーランド演出）、『アリージャンス〜忠誠〜』（スタッフォード・アリマ演出）、『オリバー!』、『メリー・ポピンズ』（リチャード・エア演出）、『COLOR』（小山ゆうな演出）、『バンズ・ヴィジット』（森新太郎演出）、『ファインディング・ネバーランド』（小山ゆうな演出）など。菊田一夫演劇賞、芸術選奨演劇部門文部科学大臣賞、読売演劇大賞優秀女優賞受賞。今後の出演予定として『スクール・オブ・ロック』が控える。

涼風真世



宮城県石巻市出身。1993年『グランドホテル』で宝塚歌劇団を退団。代表作は『ベルサイユのばら』（オスカル役）、『Puck』（パック役）など。その後、舞台や映像、声優として幅広く活躍。主な出演作に、舞台：『ポーの一族』『モーツァルト』『エリザベート』『レディ・ベス』『ロミオ&ジュリエット』『レベッカ』『貴婦人の訪問』『イーストウィックの魔女たち』『アラバスター』『マディソン郡の橋』『マリー・アントワネット』。声優としてアニメ「るろうに剣心・明治剣客浪漫譚」（CX）では主人公、緋村剣心で声優として活躍。2021年40周年記念アルバム「Fairy～A・I～」を発売。2022年「Fairy～Time to Shine～」、2023年「Fairy 新たなる一步」でライブ開催。第33回菊田一夫演劇賞を受賞。

昆夏美



洗足学園音楽大学ミュージカルコース卒。12歳から中学3年時まで、児童劇団「大きな夢」に主役で多数出演。2011年『ロミオ&ジュリエット』のジュリエット役でメジャー作品プロデビュー。『レ・ミゼラブル』（エポニーヌ役）、『ミス・サイゴン』（キム役）、ディズニー実写映画『美女と野獣』（プレミアム吹替版／ベル役）など多彩に活躍。その他の主な出演作に、【舞台】『マチルダ』、『雨が止まない世界なら』in Concert、『ネクスト・トゥ・ノーマル』、『ロッキー・ホラー・ショー』、『ドッグファイト』、『The Last 5 Years』、【TV】『グリーン&ブラックス』（WOWOW）、「アンラッキーガール」（NTV）など。13年『私は想像する』でアーティストデビュー。20年2月に主演映画『ぐるり1200キロ、はじまりの旅』がさぬき映画祭で公開。19年第10回岩谷時子賞奨励賞受賞。

シルビア・グラブ



「Jerry's Girls」(1997年)で初舞台後は、「I GOT MERMAN」「INTO THE WOODS」

「レ・ミゼラブル」「ミス・サイゴン」「三銃士」「next to normal」三谷幸喜版「ショーガール」「ON THE TOWN」「パッション」「ロミオ&ジュリエット」「日本の歴史」「ジョゼフ&アメージング・テクニカー・ドリームコート」など数々のミュージカル作品に出演。

「レベッカ」でダンヴァース夫人役を演じ、第34回菊田一夫演劇賞、三谷幸喜作・演出の「国民の映画」(パルコ劇場他)にて第19回読売演劇大賞 優秀女優賞を受賞し14年に再演。22年には第43回松尾芸能賞優秀賞を受賞。「メアリ・スチュアート」「カメレオンズ・リップ」(KERA CROSS)「ジュリアス・シーザー」「ラビット・ローズ」などストレートプレイにも数多く出演。

また、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にも出演した。

島田歌穂



1974年、子役デビュー。87年、ミュージカル『レ・ミゼラブル』初演で脚光を浴び、出演回数は1,000回を超えた。同作の世界ベストキャストに選ばれ、英国王室主催のコンサートに出演。参加した世界ベストキャストアルバムが米国にてグラミー賞を受賞するなど国際的にも高い評価を得る。他の主な出演作品は『ウエストサイド・ストーリー』『黙阿弥オペラ』『江利チエミ物語』『飢餓海峡』『ベガーズ・オペラ』『ピリー・エリオット』『メリー・ポピンズ』『ナイツ・テイル』『Endless SHOCK』など、ミュージカルからストレート・プレイまで幅広い。また、コンサートやアルバムリリース、ディズニー映画『美女と野獣』(17年)、『メリー・ポピンズ リターンズ』(19年)『魔法にかけられて2』(22年)の吹替を務めるなど、女優、歌手として多岐にわたり活躍。芸術選奨文部大臣新人賞、紀伊國屋演劇賞個人賞、読売演劇大賞優秀女優賞など受賞多数。大阪芸術大学教授。来年、デビュー50周年を迎える。

島田歌穂 WEB サイト：<http://www.shimada-kaho.com/>

夢咲ねね



女優。富山県出身。2003年宝塚歌劇団に入団(89期生)。

月組に配属後、08年に星組に組替え、09年に星組トップ娘役に就任し『オーシャンズ11』『ロミオとジュリエット』等多数の話題作でヒロインを務める。

15年『黒豹の如く』『Dear DIAMOND!!』で退団した後は、ミュージカルを中心に、幅広いジャンルで活躍を続けている。主な出演作に、舞台：『8人の女たち』、『スワンキング』、『ポーの一族』、『笑う男 The Eternal Love-永遠の愛-』、『グレート・ギャツビー』、『1789-バスティーユの恋人たち-』、『サンセット大通り』、『東京ラブストーリー』、

『Ordinary Days』TV：「着飾る恋には理由があって」(TBS)、「警視庁捜査一課9係 Season12」(EX)など。23年5月に『ファインディング・ネバーランド』にて山崎さんと共演。

和音美桜



2001年「ベルサイユのばら 2001」で宝塚歌劇団に入団。2004年外部出演「WEST SIDE STORY」でヒロイン、マリアを演じる。実力派娘役として期待を集める中、2008年12月退団。

退団後は、ミュージカル『レ・ミゼラブル』ファンティーン役、『ルドルフ・ザ・ラストキス』マリー役、『レディ・ベス』アンブーリン役、『モーツァルト!』ナンネール役等で活躍。

新妻聖子



上智大学在学中の2002年、TBS「王様のブランチ」でタレント活動開始。

2003年、5000倍のオーディションを勝ち抜き、初舞台でミュージカル「レ・ミゼラブル」エポニーヌ役を演じる。続くミュージカル「ミス・サイゴン」ではヒロインのキム役を演じ、豊かな声量と表現力で来日した海外スタッフからも絶賛された。

第31回菊田一夫演劇賞、第61回文化庁芸術祭演劇部門新人賞、第7回岩谷時子賞奨励賞を受賞。

2010・11年と2年連続でミュージカル誌が選ぶ女優部門第1位を獲得。

数々の舞台でヒロインを務めミュージカル界屈指の歌姫として第一線で活躍し、近年ドラマやバラエティ、歌番組等にも多数出演。

©Kazutaka Nakamura

宗本康兵（音楽監修・ピアノ）



3歳の時にクラシックピアノと出会い、音楽の道へ。

幅広いジャンルの音楽に精通し、アーティストやユーザーに寄り添った音を第一に考え、作曲、編曲、コンサート、テレビドラマやアニメーションの映像音楽など多岐に渡り活躍中。

プロデュースや作編曲したアーティストは、Uru、華原朋美、川嶋あい、Kinki Kids、DISH//、中島美嘉、中森明菜、ポルノグラフィティ、南野陽子、WANIMAなど多彩な顔ぶれとなっている。

近年では、山崎育三郎を始め、家入レオ、ももいろクローバーZほか数多くのバンドマスターも務めている。

田中祐子（指揮）



平成30年度（第29回）五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。2020年度ロームミュージックファンデーション奨学生。2018年4月－2020年8月、オーケストラ・アンサンブル金沢指揮者。東京音楽大学指揮科卒業。入学時に給費特待生として入学。東京藝術大学大学院指揮科修士課程首席修了。パリ・エコールノルマル音楽院オーケストラ指揮科高等ディプロム課程修了。指揮を尾高忠明、広上淳一、ドミニク・ルイスの各氏に師事。東京国際コンクール「指揮」入選、ブザンソン国際指揮者コンクール、ショルティ国際指揮者コンクールのセミファイナリスト。2013年クロアチア国立歌劇場リエカ管弦楽団に招かれ海外デビュー。これまでに、N響、読響、東響、東フィル、新日本フィル、日本フィル、神奈フィル、山響、仙台フィル、札響、名フィル、大フィル、京響、九響等、全国各地のオーケストラと共演を重ねる。2015年藤原歌劇団公演ヴェルディ「椿姫」でオペラデビュー、2017年日本オペラ協会公演原嘉壽子「よさこい節」（於：新国立劇場）、2018年名古屋二期会公演團伊玖磨「ちゃんちき」、2019年3月日本オペラ協会公演創立60周年記念公演三木稔「静と義経」、2021年12月、アクリエひめじオープニングシリーズ池辺晋一郎「千姫」（世界初演）に登壇するなど、オペラ指揮者としても着実に実績を挙げている。2015-16-17年シーズンNHK交響楽団首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィ公式アシスタント。NHK-Eテレ「クラシック音楽館」、「らららクラシック」やNHK-FM「名曲アルバム」、日テレ「読響シンフォニックライブ」、テレ朝「題名のない音楽会」等、メディア出演多数。2022年4月より名古屋音楽大学客員准教授に着任し、演奏活動と共に故郷での教育活動にも取り組む。

栗田博文（指揮）



1988年、第23回東京国際音楽コンクール指揮部門において第1位優勝を果たし、翌年、国内主要オーケストラを指揮しデビュー。1989年に渡欧。同年、第1回アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクール（イタリア）に入賞し国際的な評価を確立。1995年、第1回シベリウス国際指揮者コンクール（フィンランド）の最高位に輝く。同年、フィンランド放送交響楽団より招かれ、ヨーロッパデビューを果たし大好評を博す。国内外の活発な指揮活動とともに、国立音楽大学客員教授を務め、後進の指導にも力を注いでいる。クラシック音楽の古典から現代作品まで、幅広いレパートリーを持つほか、様々なジャンルとのコラボレーションも積極的に行っている。栗田博文ブログ：<http://hirofumi-kurita.com/>

山下康介（編曲監修）



1974年、静岡県生まれ。東京音楽大学作曲専攻卒業。映画「海辺の映画館～キネマの玉手箱」「花筐／HANAGATAMI」「その日のまえに」などの大林宣彦監督作品に多く携わるほか、NHK連続テレビ小説「瞳」やドラマ「花より男子」、アニメ「ちはやふる」、特撮作品「暴太郎戦隊ドンブラザーズ」、「仮面ライダーセイバー」、歴史シミュレーションゲーム「信長の野望シリーズ」などの音楽がある。また、「題名のない音楽会」（テレビ朝日系）などにおいて多くの編曲を手掛けているほか、宮本亜門氏演出のミュージカル「太平洋序曲」「スウィーニー・トッド」などで公演音楽監督を務めている。現在、洗足学園音楽大学教授、東京音楽大学客員教授。一般社団法人日本作編曲家協会（JCAA）理事。©Shinsuke Yamamoto

札幌交響楽団

1961年発足。北海道唯一のプロ・オーケストラとして「札幌」の愛称で親しまれ、2021年には60周年を迎えた。透明感のあるサウンドとパワフルな表現力は、国内はもとより海外でも評価が高い。例年の年間公演回数は約120回。さらに小編成でのアウトリーチ活動にも積極的に取り組んでいる。海外ではこれまでにヨーロッパ、アメリカ、アジア諸国を訪問し、各地で好評を博した。歴代指揮者には、名誉創立指揮者の荒谷正雄、ペーター・シュヴァルツ、岩城宏之、秋山和慶、尾高忠明、マックス・ボンマー、ラドミル・エリシュカなどがある。現在、スイス出身の首席指揮者マティアス・バーメルト、名誉音楽監督の尾高忠明、友情指揮者の広上淳一、正指揮者の川瀬賢太郎を擁する。

公式ウェブサイト：<https://www.sso.or.jp/>

九州交響楽団

1953年創立。1973年に改組、のち財団法人化を経て2013年から「公益財団法人九州交響楽団」となり、九州の常設オーケストラとしてアジアの交流拠点都市“福岡”に本拠地を置く。アクロス福岡での定期演奏会をはじめ、天神でクラシック、名曲・午後のオーケストラの自主公演の他、青少年向けのコンサート、オペラやバレエ、合唱との共演、ポップス、映画音楽、ファミリーコンサートなど内容は多岐に渡り、福岡県を中心に九州各地で年間約150回の演奏活動を行っている。2013年小泉和裕が音楽監督に就任後「ベルリオーズ／幻想交響曲」、「ベートーヴェン／交響曲第9番」、「マーラー／交響曲第8番《千人の交響曲》」「マーラー／交響曲第3番」のCDを発売。これまでに、福岡市文化賞、西日本文化賞、文部大臣地域文化功労賞、福岡県文化賞を受賞。東京2020オリンピック競技大会閉会式のアトラクション用楽曲に、九州交響楽団演奏の『武満徹／「波の盆」』が使用された。

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもち、メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ。定期演奏会や「午後のコンサート」、オペラ・バレエ演奏、NHK他における放送演奏の他、各地での訪問コンサートや海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年には『情熱大陸』『BS1スペシャル』などのドキュメンタリー番組や国民的番組『NHK紅白歌合戦』にも登場。1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を締結。文京区、千葉市、軽井沢町、長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的・創造的な文化交流を行っている。

大阪交響楽団

1980年「大阪シンフォニカー」として創立。初代音楽監督・常任指揮者に小泉ひろしを迎える。創設者である、永久名誉楽団代表・敷島博子が『聴くものも、演奏するものも満足できる音楽を！』を提唱。いつも聴衆を“熱く”感動させるその演奏は、「魂の叫び」「情熱の音」と評されている。

2001年1月に、楽団名を「大阪シンフォニカー交響楽団」に、2010年4月「大阪交響楽団」に改称した。

1992年1月にトーマス・ザンデルリンクを音楽監督・常任指揮者に迎え、オーケストラとしての基礎を築いた。その後、曽我大介、大山平一郎、児玉宏、外山雄三の歴代シェフのもと、楽団は大きく発展を遂げてきた。また、2022年4月、新指揮者体制として、山下一史（常任指揮者）、柴田真郁（ミュージックパートナー）、高橋直史（首席客演指揮者）の3名が就任、さらなる楽団の飛躍が期待されている。

2006年4月、大和ハウス工業株式会社 代表取締役会長 CEO（当時）樋口武男氏が運営理事長を経て、2018年11月公益社団法人大阪交響楽団理事長に就任。2020年10月に大和ハウス工業株式会社 代表取締役社長 CEO 芳井敬一氏に理事長をバトンタッチした。

楽団公式ホームページ：<https://sym.jp>（2022年4月現在）

セントラル愛知交響楽団

1983年ナゴヤシティ管弦楽団として発足。岩倉市との音楽文化普及事業委託契約による事業補助を受け1997年に現名称に改名。2009年一般社団法人となり、2021年4月に愛知県より認定を受け公益社

団法人となる。2023年に創立40周年を迎えた。2019年4月から常任指揮者に名古屋出身の角田鋼亮が就任。名誉音楽監督にレオシュ・スワロフスキー、桂冠指揮者に小松長生、特別客演指揮者に松尾葉子、首席客演指揮者に齊藤一郎、正指揮者に古谷誠一を擁し活動を行う。定期演奏会、コンチェルトの夕べ、第九、超！有名曲シリーズ、Wコンチェルトシリーズの他、2023年より新たにオペラセミステージシリーズを展開。バレエ、オペラ等の依頼公演にも数多く出演する。海外では2007年中国内モン族自治区、2009年タイ・バンコク（文化庁国際交流支援事業）、2017年韓国・釜山（釜山マル国際音楽祭）で公演し成功を収める。

2015年半田市と音楽文化振興の協定、2019年一般財団法人稲沢市文化振興財団とも協定を締結。

1996年「平成7年度愛知県芸術文化選奨文化賞」、2005年「平成16年度名古屋市芸術奨励賞」、2007年「第2回名古屋音楽ペンクラブ賞」受賞。

公式ホームページ：<http://www.caso.jp/>